Sledge 2.0の新機能

● オートデュアルモード

Sledge 2.0では、SplitまたはLayerを使用して、同時に2つの異なるサウンドをプレイできるようになりました。 この機能は、Global Functionメニューに新たに追加されたページで設定します。

Splitの場合は一つの鍵盤、Layerの場合は複数の鍵盤を押したまま、新しいサウンドを選択する と、現在のサウンドにそのサウンドが追加され、デュアルモードで演奏できます。このサウンド の組み合わせは、プリセットとして保存が可能です。

● ピッチベンドとサステインペダルの個別設定

新しいGlobalページでは、デュアルモードで演奏される2つのサウンドに対して、個別にピッチベ ンドとサステインペダルの設定ができるようになっています。例えば、Upperのソロ音色だけに ピッチベンドを、Lowerのピアノやドラムループだけにサステインペダルを有効にする、という 使い方です。もちろん、UpperとLower両方を有効にすることもできます。

● リバーブ+ディレイの同時使用

2つのエフェクトをミックスする新機能です。ミックスモードでは、リバーブの設定は現在のままで、TimeとLevelのノブはディレイのパラメーターを設定します。

● サンプルプレーヤー機能

内蔵の60MBフラッシュメモリーにサンプルをロードして、OSC1の波形として使用できるよう になりました。フィルターやエンベロープ、エフェクトなどの設定は通常のオシレーター波形と 同じように有効です。

● 専用エディターソフト 「SPECTRE (スペクター)」 (別売/ダウンロード)

サンプルやその各種設定(キーボードレンジ、チューニング等)は、専用エディターソフト SPECTREを使用して、コンピューターからUSB経由で本体メモリーに転送されます。

● 同時発音数の拡張

同時発音数が24ボイスに拡張されました。この24ボイスは、シンセサイズされた音色とサンプル を含みます。

ご注意: Sledge 2.0は、サンプルプレーヤー機能のライセンスがインストール済みです。
 旧バージョンのSledgeでは、ファームウェアをV2.0にアップデートしてサンプルプレーヤー以外の機能を使用できますが、サンプルプレーヤー機能を使用するには、下記のWaldorfホームページで使用料の支払いが必要です。

http://www.waldorfmusic-shop.de/sledge-sl (英語版のみ)

<オートデュアルモード>

2つの異なるサウンドを同時に演奏する機能です。**"Global"**ページで設定します。通常はONに設定されていて、VALUEエンコーダーでONとOFFを切り替えます。



デュアルモードで演奏するには、**鍵盤を押しながら次の音色を選択**します。押しているのが1つの鍵盤の場合はSplitモード、複数の鍵盤ではLayerモードになります。Splitモードでは、新しく選択した音色は、押した鍵盤より右のUpper側にロードされます。

パネル表示とエフェクト

デュアルモード使用時、パネルにはUpperサウンドのプログラム名と最後に選択されて いたエフェクトが表示されます。

スプリットポイントの設定

Upperサウンドの選択時に1つの鍵盤を押していた場合は、そのキーを基準点として UpperとLowerのサウンドがスプリット(分割)されます。

ご注意: デュアルモードでUpperサウンドを選ぶ時は、テンキーを使ってプログラム No.を入力してください。

たとえばサウンド001で鍵盤を押しながら、サウンド002を選択してデュアルモードを アクティブにした時、ディスプレイには下図のように各パラメーターが表示されます。



デュアルサウンドの保存

デュアルサウンドの組み合わせは、一つのプリセットとしてストア(保存)できます。 デュ アルモードがアクティブであることを確認し、通常と同じ手順で保存先のプログラムNo. を選択してください。

ピッチベンドとサステインの設定

このGrobalの新しいページで、ピッチベンドとサステインペダルが、UpperかLowerまたはその両方に有効となるよう設定します。

サステインペダルの設定

目的の機能にカーソルを合わせ、VALUEエンコーダーを使って、UPP(Upper)/LOW(Lower)/ALL(両方)のどれかを選択します。

ご注意: この機能はデュアルモードでのみ有効です。

<2種のエフェクトのミックス>

Sledge 2.0では、リバーブとディレイの2つのエフェクトをミックスできるようになり ました。エフェクトのTYPEボタンを押すたびに、下記の順に切り替わります。

Off (LED消灯) > Reverb > Delay > Reverb + Delay (両LED点灯) > 戻る

ご注意: ミックスモードではリバーブの設定は以前の状態のまま固定され、ノブの操作 はディレイのパラメーターにのみ有効になります。



<サンプルプレーヤー機能>

Sledge 2.0では、OSC1で選択できる波形やウェーブテーブルに、サンプルプレーヤー が追加されました。

WAVEFORMボタンを押すと、OSC1が下記の順に切り替わります。

SAWTOOTH > SQUARE > TRIANGLE > SINE > PULSE > WAVETABLE > SAMPLE

サンプルプレーヤー選択時は、PULSEとWAVETABLE両方のLEDが点灯し、 WAVETABLEエンコーダーでサンプルが変更できます。 WAVETABLEまたはSAMPLEが選択されている場合は、WAVETABLEエンコーダーを 回すと下図のように画面にWAVETABLEまたはサンプル名が表示されます。

WAVETABLE



SAMPLE

0	S	С	1		S	A	Μ	Ρ	L	Ε	Ρ	R	G	
G	R	A	Ν	D		Ρ		A	Ν	0				

<専用エディターソフトSPECTRE (スペクター)>



サンプルプレーヤー機能で使用されるサンプルは、Sledge専用エディターソフト SPECTREを介してコンピューターからSledgeの内蔵60MBフラッシュメモリーに転送 されます。SPECTREでは各サンプルのチューンやキーレンジなどの設定が可能です。

SPECTRE上で並べ替えたサンプルは、そのままの順序でSledge 2.0に転送されます。

SPECTRE の使い方

Sample Program Extended Content Transmission Remote Editor by Waldorf

はじめに

Sledge専用エディターソフトSPECTREは、サンプルの設定や転送だけでなく、サンプ ル再生機能も持っています。もしSledge本体を持っていなくても、SPECTREを使って コンピューター上で設定したサンプルの再生ができます。

インストール

Mac: Spectre.app をアプリケーションフォルダーにドラッグします。 Win: Install Spectre.exeを実行して、画面表示に従います。 ※ Sledge 2.0の製品ページ(英語版)で、いくつかのデモサンプルがダウンロードできます。

ユーザーインターフェース



1. Program List (プログラムリスト)

ロード可能なすべてのプログラムの一覧です。対応ファイル形式は4種類です。

- XML: サンプルセットの一般的な保存形式
- KMP: KORGフォーマットのサンプルプログラム
- WPC: Waldorfのプリセットファイル(編集できません)
- TXT: SPECTREのコマンドラインバージョンで使用されるテキスト形式

プログラムをロードしたら、サンプルリストからサンプルを選択します。 **プログラムを削除**するには、クリックして Delete または Backspace キーを押します。

ご注意: 削除する時は、複数のプログラムを同時に選択できます。 名前の変更をするには、ダブルクリックして新しい名前を入力します。 並べ替えをするには、プログラムをドラッグして移動します。 プリセットプログラムは黒、その他は赤色で表示されます。

2. Load (プログラムの読み込み)

プログラムをロードします。

3. Save (保存)

現在のセットをXML形式で保存します。

4. Export (書き出し)

選択されたプログラムをXML形式で書き出します。一覧から目的のプログラムだけを保 存するときに便利です。

5. New (新規作成)

新規プログラムを作成します。プログラム名の変更やサンプルの追加をしてください。

6. Audio/MIDI (オーディオ/MIDI)

オーディオと MIDI を設定します。ノートをトリガーするには、画面上のキーボードかコ ンピューターに接続された MIDI キーボードを使用してください。サンプルを転送する場 合は、Sledge を MIDI output に設定します。

7. Save MIDI File (MIDIファイルの保存)

現在の内容をSledgeに転送するため、MIDIファイルとして保存します。

8. Transmit (転送)

USB MIDIを経由して、サンプルを接続されているSledgeに転送します。サンプルのサ イズにより転送時間は変わります。転送中にEscキーを押してキャンセルした場合、転送 中のサンプルが再生不能になることがあります。

9. Samples list (サンプルリスト)

選択されたプログラムに含まれるサンプルの一覧です。複数のプログラムが選択されて いる場合は、一番上のプログラムのサンプルが表示されます。サンプルをクリックして 選択すると、そのサンプルのキーレンジが表示され、Shiftを押しながらノートをトリガ ーすると、そのキーレンジに割り当てられたサンプルを選択します。サンプルを再生す るには、リストをダブルクリックするか、キーレンジ内のノートをトリガーします。

ご注意: サンプルを空のプログラムにドラッグ&ドロップすると、Root keyとサンプ ルを再生する上限のキー(Highest key)が自動的に設定され、多くの場合は少 しの調整だけでそのまま使用できます。

サンプルをリストから取り除くには、選択して delete か backspace キーを押します。 SPECTRE のリストから外れるだけで、コンピューター上のファイルは削除されません。

ご注意: セットではサンプルは保存せず、ディスク上の場所が記録されます。セットの 保存後にサンプルを移動すると、次回ロード時に読込みできません。

10. Load (サンプルの読み込み)

このボタンを押すか、サンプルをリストにドラッグ&ドロップして、サンプルをロード します。WAV 形式ファイルに対応し、ループ情報が含まれていれば反映します。ステレ オファイルも読み込みできますが、自動的にモノラルに変換されます。

11. Root key (ルートキー)

サンプルの音程の基準となるRoot Keyを設定します。設定したRoot Keyのノートをト リガーすると、サンプルはトランスポーズ無しで再生されます。例えばC3のピアノサン プルではRoot Keyを"C3 60.00"に合わせます。設定にはいくつかの方法があります。

- ・ "Root key"ノブを回す
- · Ctrlキーを押しながらノートをトリガーする
- · テキストボックスに直接入力する 例"A3"
- ・ テキストボックスにノート番号を入力する 例 "60.3"
- ・ ノート番号とup/downを入力しトランスポーズ 例 "12 up"または"0.2 down"
- ノート番号とup all/down allを入力し全てのサンプルをトランスポーズ
 例 "12 up all"

12. Highest key (再生上限キー)

選択されたサンプルが再生される上限のキーで、リスト内のサンプルはこのHighest Keyごとに自動で並べ替えられます。Root Keyと同様いくつかの設定方法があります。

- ・ "Highest key"ノブを回す
- · Altキーを押しながらノートをトリガーする
- · テキストボックスに直接入力する 例"A3"
- ・ テキストボックスにノート番号を入力する 例 "60"
- ・ ノート番号と up/down を入力しトランスポーズ 例 "12 up"または"1 down"
- ノート番号と up all/down all を入力し全てのサンプルをトランスポーズ
 例 "12 up all"

13. Reference (リファレンス)

チューニングの参考として、シンプルなノコギリ波を再生します。

14. Normalize sample (サンプルのノーマライズ)

サンプルの音量をクリップする限界まで自動的に調整し、その結果はLevelノブの隣に表示されます。ステレオサンプルの場合は、適正な結果にならない場合があります。Shiftを押しながらクリックすると、現在のプログラムの全サンプルに適用されます。

15. Normalize program (プログラムのノーマライズ)

プログラムに含まれる全てのサンプルを、サンプルごとの音量バランスを保ったままノ ーマライズします。この機能は、Normalize Sampleを適用したサンプルには無効です。

16. Level [dB] (音量)

ノーマライズが適用されていないサンプルの、音量を調整します。Shiftを押しながらノ ブを回すと、現在のプログラムの全サンプルに適用されます。

17. Fixed pitch (ピッチの固定)

サンプルの音程を固定して再生します。 ※ 2015年9月現在、Sledge本体はFixed pitchに対応していません

18. Information display (インフォメーション画面)

現在のサンプルと選択されたプログラムの情報、60MBメモリーの使用率を表示します。 100%を超えた場合でもサンプルセットの編集や保存はできますが、MIDIファイルの保 存とSledge本体への転送はできません。

19. ソフトウェアキーボード

選択されたサンプルのRoot Keyやキーレンジを設定します。選択されたサンプルは画面 上のキーボードまたは外部MIDI鍵盤で演奏できます。ソフトウェアキーボードで可能な 操作は下記の通りです。

- ・ 左クリックで発音。
- ・右クリック(Win)またはコマンド+クリック(Mac)で鍵盤を押した状態が保持され、
 発音中の鍵盤は緑色表示になります。もう一度左クリックで解除。
- Shiftキーを押しながらノートをトリガーすると、サンプルの選択とASCIIキーボードの設定ができます。ASCIIキーボードのレンジには小さなドットが表示されます。
- ・ Ctrlキーを押しながらノートをトリガーすると、Root Keyの設定ができます。
- ・ Altキーを押しながらノートをトリガーすると、highest keyの設定ができます。

サンプルが割り当てられていないノートはグレー表示となり、サンプルは再生されませんが、リファレンスのノコギリ波は発音されます。

20. Upgrade (アップグレード) 本体のファームウェアをアップデートします。